

飛島（山形県酒田市）

日本海に浮かぶ山形県唯一の島、飛島（とびしま）。日本の渚・百選に選ばれている風光明媚な島であり、鳥海山から昇る朝日、海に沈む夕日は絶景です。



大量の漂着ゴミから美しい海岸を取り戻そうと今年で5回目になるクリーンアップ作戦。NPO、東北公益文化大学、山形県及び酒田市などで構成される実行委員会の呼びかけに、ボランティア、島民、関係者など総勢約300人が清掃活動を行っています。参加者は県内だけではなく、関東方面からの参加もあり、協働の輪が広がっています。



流木・タイヤ・網・・・



いくつあるんだろう、...



見た目はふつう？

味は最高！

ホックホクで濃厚な味、おいしいと評判でありながら生産量が少なく市場に出回らない飛島産のじゃがいも、通称「ごどいも」。過疎と高齢化から収穫量が減っていくなかで、この貴重な作物を守ろうと酒田市の呼びかけに応じて誕生したのが、庄内みどり農協青年部のメンバーからなる「ごどいも食べさせ隊」。平成15年に15畝から始めた栽培は今年20畝に広げ、栽培管理から収穫まで島民や多くのボランティアとの協働が続いています。この協働の輪の広がりは、遂に「ごどいも焼酎」の誕生となりました。

ごどいも収穫後の畑を利用したそばの栽培が始まったのが、平成16年。160年間眠り続けた「天保そば」の発芽を奇跡的に成功させた山形市内の蕎麦屋さんグループが、他種との交雑を避け純系を守るために選んだ栽培地が飛島です。この地でそば栽培の事例はありませんが、島という隔絶性を利用する発想が実を結びました。飛島の新たな特産品に向けた取り組みが期待されます。毎年秋に開催される収穫感謝祭は、蕎麦屋さん、ごどいも隊と島民の絆を強める場として定着してきています。



年に一度の収穫感謝祭！

飛島大好き！ 貝助教教授ゼミのみなさん



以上、紹介した取り組みの中で大きな役割を果たしているのが、東北公益文科大学の学生達です。フィールド学習で飛島を訪れ、美しい自然とは対照的な漂着ゴミに心を痛め、このゴミをなくしたいとの思いから飛島で活動が始まりました。

これまで、離島振興計画策定時にあたり市からの委託事業として住民アンケートや聞き取り調査を実施したほか、飛島クリーンアップ作戦への参加、イベント時の観光ガイド、植生研究など飛島において様々なフィールドワークを実施しています。つい先日行われた、島民が望んでいた荒崎海岸の草刈りは島民との協働の新たな幕開けを感じます。